

学年・組・名前：2年 Nさん

プログラム名：SHOW YOUR DREAMS 2024

留学国・都市名：アメリカ カリフォルニア州アーバイン

期間：7日間

志望動機： 私は将来、国際機関で発展途上国の医療に関わる仕事に携わりたいと考えています。夢への一歩として日本とは異なる文化を高校生のうちに肌で感じていたいと考えていたため、そして貧困や医療について海外の人々の考えを知りたかったため、多様な文化が入り混じっているアメリカで行われるこのプログラムに応募しました。また、私は海外に行ったことがなかったので自分の英語がどこまで通用するか試したかったことも理由の一つです。

現地での生活： 小学4年生から高校3年生の約30人が参加しました。現地の語学学校で午前中に授業、午後はアクティビティーをしたりホストファミリーと過ごしたりしました。学校は英語の能力に応じて2つに分かれ、授業をしました。私はアドバンストクラスだったので、もう一方のクラスの様子は分かりませんが、授業というよりはずっとディスカッションをしている感じでした。(帰国子女や英語が堪能な子ばかりのクラスだったからだと思います)。ホストファミリー宅には2、3人のグループで滞在しました。私のホストファミリーは本当に親切で素晴らしい方たちでした。他のホストファミリーに滞在した友達もみんな「素晴らしい人たちだった!」と言っていました。

現地で学んだこと感じたこと： 食事をしていた時、現地の人とこんな話をしました。「日本人はもったいないという言葉をよく使うらしいけど、なぜ食べきれなかったものを持って帰らないのか疑問だ。(※アメリカにはほとんどのお店に食べきれなかったものを持ち帰るための容器がある)しかも日本は車検が厳しいから古い車乗れないでしょ？それすごく無駄じゃない？アメリカでは古い車もよく走っているよ。みんなアメリカは最も環境に悪影響をもたらしている国の一つだというけど、こういう点で考えたら日本もすごくもったいないことをしていると思う。」「確かに!」と思ったところもあれば、納得しづらいなと思うところもありました。でもどちらにも共通していたことはそんなこと考えたことも疑問を抱いたこともなかったことです。このような自分の視野の狭さを自覚するような経験がアメリカでは多くありました。貧困などの社会問題についても様々な人とお話しできて興味深かったです。英語力については思っていたより自分が喋れることに気づきましたが、複雑な話題になると自分の思いを表現することが難しく、そこが課題だと感じました。

今後の目標： このプログラム中にたくさんの人と自分自身のこと、将来の夢について共有することで、よりそれらに対する考えを深めることができ、その夢を、現実味を帯びたものに少し近づけることができました。大学生の時にもう一度どこかの国へ留学したいと考えているので、将来の夢に少しずつでも努力していきます。

